

令和 6 年度 第 1 回薬剤業務・災害対策委員会議事録

日 時：2024 年 8 月 28 日（水）18：30～19：45

場 所：盛岡赤十字病院 2 階会議室

担 当：《司会》鈴木委員長 《書記》佐藤委員

出席者：工藤会長、鈴木委員長、増田副委員長、和久井副委員長、小柳委員、佐藤委員、
上野委員、小原委員、根田委員、氏家委員

欠席者：菊池委員

議事

【確認事項】

1.令和元年度 第 2 回 薬剤業務・災害対策委員会議事録について

- ・前回議事録が確認された（別紙 1）。

【協議事項】

1.本年度活動方針と計画について

- ・鈴木委員長より説明がなされた（資料 1）。

2.岩手県病院薬剤師会における災害時情報共有体制及び医療救護活動について

- ・鈴木委員長より災害時の運営体制の変更案について説明がなされた（資料 2）。
- ・盛岡赤十字病院を基幹災害拠点病院から盛岡医療圏の地域災害拠点病院へ変更し、県内の基幹災害拠点病院は岩手医科大学附属病院のみとする変更案について、協議の結果承認された。

3.全国都道府県病院薬剤師会災害担当国会議（2024/4/21）資料について

- ・鈴木委員長より、上記会議の資料の説明がなされた（資料 3）。

4.災害登録派遣薬剤師の登録確認・追加募集及び令和 6 年度の災害医療の研修実施について

- ・鈴木委員長より、災害登録派遣薬剤師とその要件、および上記の募集・研修等について説明がなされた（資料 4）。
- ・今年度の災害登録派遣薬剤師登録確認書について、鈴木委員長が継続することで承認された。
- ・工藤会長より、研修はオンラインかとの質問があり、鈴木委員長よりその通りであるとの回答がなされた。
- ・工藤会長より、災害登録派遣薬剤師として、毎年継続して受講すべき研修等はあるのかと

の質問があり、鈴木委員長より現在のところ追加研修はないとの回答がなされた。

- ・ 工藤会長より、災害急性期の医療チームである DMAT とは異なり、災害登録派遣薬剤師は主に被災地の病院の業務支援を行うとの補足説明がなされた。
- ・ 小原委員より、DMAT 経験者は災害登録派遣薬剤師になれないのかとの質問があった。これに対し鈴木委員長及び工藤会長より、DMAT 経験者を排除する規程は存在しないが、災害時に別の仕事を求められるため、DMAT との兼任は非現実的であるとの回答がなされた。

5.令和 6 年度日本病院薬剤師会災害登録派遣薬剤師（岩手県）の公募及び

令和 7 年度災害登録派遣薬剤師（岩手県）の公募について

- ・ 鈴木委員長より、上記の公募について説明がなされた（資料 5、6）。
- ・ 協議の結果、令和 6 年度の公募は見送ることとなった。
- ・ 令和 7 年度の公募については年明けを目途に実施し、それに先立ち各委員が自施設で災害登録派遣薬剤師について周知することとなった。また、その他の周知方法についても検討することとなった。
- ・ 工藤会長より、「登録したからといって、必ず派遣要請に応える義務が生ずるものではない。家庭事情などで被災地に行けないことはあり得る。このあたりも周知し、立候補のハードルを上げすぎないようにすべし。」との意見が出された。
- ・ 鈴木委員長より、現地への移動や宿泊等は日病薬がサポートするとの補足説明がなされた。

6.過去のおくすりフェスタ開催内容について（本年度計画は未定）

- ・ 鈴木委員長より、2018 及び 2019 年度のおくすりフェスタについて説明がなされた（資料 7、別紙 2、3）。
- ・ 工藤会長より、薬学関係者懇話会が発起し 2018 及び 2019 年度に開催したが、コロナ禍以降は開催を見合わせているとの補足説明がなされた。
- ・ 本年度の開催については工藤会長が関係者に確認を行うこととなった。
- ・ 来年度以降の開催を見据え、病院薬剤師の仕事紹介のポスターの写真及び文章の更新を実施することとなった。担当は以下の通り。
 - ・ 調剤業務：氏家委員
 - ・ DI 業務：上野委員
 - ・ 製剤業務：佐藤委員
 - ・ 病棟業務：根田委員
 - ・ 災害救護：小原委員
 - ・ その他：増田副委員長、小柳委員

7.研修会の企画運営について

- ・鈴木委員長より、上記について説明がなされた（資料 8）。
- ・災害分野は協賛していただける企業が少なく、開催が難しいとの説明がなされた。
- ・今年は能登半島地震の際に支援活動に従事した薬剤師が複数名おり、また前述の災害登録派遣薬剤師の周知にも繋げるため、年度内の開催を検討することとなった。
- ・現時点での会場候補は盛岡赤十字病院。

【その他】

- ・鈴木委員長より、今回は新委員の顔合わせ及びコロナ禍によるブランクを埋めるための情報共有を兼ねての現地開催であり、次回以降はメールや Web 会議なども活用し委員の負担が無いように運営していきたいとお話があった。

以上